

令和2年11月10日号 (第213回)

阿伎留通信

公立阿伎留医療センターは、医の心を重んじ、患者の生命と健康と生活の質を考える良質の医療を実践し、地域医療の最適化に努力します。

今回の阿伎留通信は、「放射線科医の仕事紹介」をテーマに、放射線技師の岩崎 健よりお話しさせていただきます。

病院の「放射線科」に皆さんはどんなイメージを持っているでしょうか。放射線科といえば、昨年フジテレビのドラマ『ラジエーションハウス』で話題となり、かなり知名度が上がったように感じています。

当医療センターの放射線科には「放射線診断部門」と「放射線治療部門」があり、常勤医師1名（診断医）、非常勤医師3名（治療医）、放射線技師15名、看護師3名、事務1名、受付クランク4名で構成されています。

今回はこの放射線部門の中から『放射線科医』についてご紹介したいと思います。放射線科医は主に放射線診断医と放射線治療医（腫瘍医）に分けられ、それぞれ病院診療にとって重要な役割を担っています。

・放射線診断医とは

各診療科の医師が依頼し、撮影したレントゲン写真、CTやMRI、X線透視画像や核医学画像など様々な画像検査を解析、診断（読影）する画像診断の専門家です。様々な診療科の依頼を受けて全身の画像検査を行っていますので、幅広い知識が必要とされます。

最近では、CT撮影1件での画像が500枚以上になるような検査も多く、1日に行う検査を合計すると、大変な量の画像になります。その画像を1コマ1コマ隅々まで丁寧に読影して、主治医に結果を報告しています。

また、画像の知識を多く持っているため、各診療科の医師が相談に来ることも多々あり



ます。当センターでは行っていませんが、放射線科で行うカテーテルを使用した治療や造影検査を自ら行う放射線科医もいます。

・放射線治療医（腫瘍医）とは

「放射線治療」とは、高エネルギーの放射線（X線や電子線など）を利用して、主に「がん」を治療する方法です。この放射線治療を専門とする医師のことを放射線治療医といいます。放射線治療医はあらゆる「がん」（腫瘍）に精通しているため、放射線腫瘍医とも呼ばれます。



放射線治療は主治医からの依頼を受け、患者さんを診察した上で、どのように放射線を照射すれば「がん」を治療でき、かつ「がん」のまわりの正常組織のダメージを少なく抑えられるかを考えて計画を立てます。これを「治療計画」と呼びます。

放射線治療のほとんどは治療に1ヶ月以上かかるので、毎週診察をして、患者さんや腫瘍の状態を観察しながら、その状態にあわせて治療計画に変更を加えたり、やり直したり、細かく対応して治療しています。

以上、簡単ではありますが放射線科医の仕事を紹介させていただきました。

患者さんが放射線科医に直接会う機会は限られるかもしれませんが、病院が提供する医療の中で、大変重要な役割を担っていることをご理解頂けたらうれしいです。

我々放射線技師にとっても、放射線科医との連携は重要であり、検査方法や撮影方法などを適宜相談したり、追加撮影などを行ったりしています。

また、疑問に思った事をすぐに相談できますし、丁寧に教えて頂けるので、とても勉強になります。放射線科医により良い読影や治療計画をして頂くために、今後もスタッフ一同良質な画像情報の提供に努め、地域医療の発展に貢献していきます。



阿伎留通信については、バックナンバーを公立阿伎留医療センターのホームページで御覧になることができます。ホームページアドレス(<http://www.akiru-med.jp>)